

機関番号：12401

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2007 ～ 2010

課題番号：19730151

研究課題名 (和文) 両大戦間期の LSE における経済学の生成と発展

研究課題名 (英文) The Acceptance and evolution of economics in 1930' s LSE

研究代表者

木村 雄一 ( KIMURA YUICHI )

埼玉大学・教育学部・准教授

研究者番号：80436740

研究成果の概要 (和文)：

「両大戦間期の LSE における経済学の生成と発展」について、(1) LSE における大陸経済学の受容と展開－「ロビンズ・サークル」の役割、(2) LSE とケンブリッジ－対立と協調、LSE のケンブリッジ疎開 (3) LSE における「ケインズ革命」の群像－カルドア、ヒックス、ラーナー、(4) 「プラント・グループ」(プラント、コース) による企業組織・企業理論の研究 (5) 国際的な経済学研究機関－講義科目、LSE の施設拡張、招待講演、特別講義の調査、(6) Academic Assistance Council の創設－ベヴァリッジ、ロビンズ、ミーゼスによるユダヤ学者救出、(7) LSE の知性史－ドールトン、キャンナン、ロビンズ、ラスキ、カルドア、ヒックスらの知的交流、の観点から明らかにした。

研究成果の概要 (英文)：

This research could clarify how economics is accepted and evolved at LSE during the period between the First and the Second World War, from the following viewpoints: (1) The acceptance and evolution of the continental economics at LSE in the 1930s: on the theme of 'Robbins Circle', (2) LSE and Cambridge: conflicts, collaboration, and LSE's evacuation to Cambridge, (3) The Keynesian Revolution at LSE: Kaldor, Hicks and Lerner, (4) Arnold Plant's group on the industrial organization: Arnold Plant, Ronald Coase, (5) The International social science research center : syllabi with a detailed class schedule of each subject, the physical accommodation's expansion, some invitation lectures, (6) The foundation of the Academic Assistance Council: Beveridge, Robbins and Mises rescuing refugee scholars from the Nazis, (7) The Intellectual history of LSE : Dalton, Cannan, Robbins, Laski, Kaldor, Hicks and et all.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	900,000	0	900,000
2008 年度	900,000	270,000	1,170,000
2009 年度	600,000	180,000	780,000
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
総計	3,200,000	690,000	3,890,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学説・経済思想

キーワード：LSE、ケンブリッジ、ロビンズ、ロビンズ・サークル、カルドア、ヒックス、ハイエク、ラーナー、ベヴァリッジ、両大戦間期、1930年代

## 1. 研究開始当初の背景

申請者の研究の全体構想は、設立時から現代に至る LSE (ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンス) 研究である。申請者は大学院生よりロビンズ、カルドア、ハイエク、ヒックスらを中心とする経済学の研究をまとめ、課程博士論文「1930年代の LSE における大陸経済学を受容と展開—『ロビンズ・サークル』を中心に—」としてまとめ、京都大学より博士(経済学)を得た(「研究の目的」で後述する研究トピック(1)に該当する)。LSE は現代経済学の生成と発展を考量する上で重要な研究対象である。なぜなら、LSE は、1895年にウェッブ夫妻やフェビアン協会によって設立された小規模な学校であったにもかかわらず、ベヴァリッジが学長に就任した1919-1937年に大学規模が発展して、1930年代には、ロビンズ、ハイエク、カルドア、ヒックス、ラーナー、コースらの「ロビンズ・サークル」を生んだからである。戦後においても、LSE は、再びロビンズの下に、ポーモル、ピーコック、ハーン、ミード、森嶋らが集ったり、多数のノーベル経済学賞受賞者を輩出したりするなど、現代経済学の形成に重要な役割を果たしている。

## 2. 研究の目的

本研究は、こうした LSE の意義を重視して、経済学の生成と発展に重要な役割を果たした「両大戦間期の LSE」に光をあてる。本研究は、具体的に以下の七つのトピックに分けられる。

(1) LSE における大陸経済学を受容と展開—「ロビンズ・サークル」の役割

(2) LSE とケンブリッジ対立と協調、LSE のケンブリッジ疎開

(3) LSE における「ケインズ革命」の群像—カルドア、ヒックス、ラーナー

(4) 「プラント・グループ」(プラント、コース)による企業組織・企業理論の研究

(5) 国際的な経済学研究機関—講義科目、LSE の施設拡張、招待講演、特別講義の調査

(6) Academic Assistance Council の創設—ベヴァリッジ、ロビンズ、ミーゼスによるユダヤ学者救出

(7) LSE の知性史—ドールトン、キャン、ロビンズ、ラスキ、カルドア、ヒッ

## スらの知的交流

本研究は、四年間の研究を通じて、学位論文を拡充しつつ、内外の資料を用いながら、(2)～(7)の課題をそれぞれこなして、「両大戦間期の LSE における経済学の生成と発展」をまとめることを目的とする。

## 3. 研究の方法

研究手法は「資料調査研究」と「入手資料の整理と理論研究」の二つの柱とする。前者は、LSE、ケンブリッジ、オックスフォードが所有している文書類の調査を中心とし、後者は公刊論文および入手資料の整理を通じて、論文執筆や学会報告の準備にあてる。研究遂行上の具体的工夫としては、研究会報告や学会報告を積極的に行うことで、より完成された研究成果を得られるようにする。

## 4. 研究成果

研究成果としては、「両大戦間期の LSE における経済学の生成と発展」について以下の観点から明らかにした。

- (1) LSE における大陸経済学を受容と展開—「ロビンズ・サークル」の役割  
① 「ロビンズ・サークル」の誕生、② ヒックスとカルドア、③ ロビンズの「価値自由の経済学」、④ ロビンズとケインズの政策論争
- (2) LSE とケンブリッジ対立と協調、LSE のケンブリッジ疎開
- (3) LSE における「ケインズ革命」の群像—カルドア、ヒックス、ラーナー  
① 「ケインズ革命」の衝撃  
② カルドア対ロビンズ=ハイエク、③ 『一般理論』に対する「ロビンズ・サークル」の解釈
- (4) 「プラント・グループ」(アーノルド・プラント、ロナルド・コース)による企業組織・企業理論の研究
- (5) 国際的な経済学研究機関としての LSE  
① LSE 誕生とロンドン大学の一員として、② 社会科学の拠点として(キャンと経済学、ボウリーと統計学、ホブハウス、ウェスターマークと社会学、マッキンダーと地理学)、③ベヴァリッジ学長と LSE の発展(講義科目、LSE の施設拡張、招待講演)

(6) Academic Assistance Council の創設 ベヴァリッジ、ロビンズ、ミーズによるユダヤ学者救出

(7) LSE の知性史 ① ベヴァリッジとロビンズたちの対立、② ベヴァリッジの退任、③ ドールトン、キャナン、ロビンズ、ラスキ、カルドア、ヒックスらの知的交流

これらの得られた成果について、内外では最初の両大戦間期の LSE に関する一連の包括的な研究として位置づけられ、とりわけ『LSE 物語』(NTT 出版, 2009 年)については、毎日新聞(伊東光晴名誉教授/京都大学)と日本経済新聞社(江頭進教授/小樽商科大学)に書評された。

今後の展望としては、第二次大戦後の LSE の経済学の発展と展開および LSE とケンブリッジやオックスフォードやアメリカの経済学との関係に視点を移すと同時に、本研究で鍵を握る存在である LSE 出身でケインズの衣鉢を継ぐニコラス・カルドアの経済思想を明らかにすることである。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

1. 木村雄一、瀬尾崇、2011年3月 「カルドア二部門モデルの再検討」『進化経済学会論集第15集』1-17頁. 査読無.

2. Kimura Yuichi, 2010年10月 The ‘Robbins Circle’ of the London School of Economics and Political Science: the Liberalism group’s counterattack of Laissez-faire against Cambridge, Journal of Saitama University, Faculty of Education, Vol. 59, No. 2. 査読無.

3. Kimura, Yuichi, 2010年 3月 Early Kaldor on the theory of the firm: 1934-38. Journal of Saitama University, Faculty of Education, Commemorative Issue for the Retirement of Professor Hiroaki Shirai Vol. 59, No. 1. 査読無.

4. 木村雄一、2009年 3月 「ロビンズ・サークル」『進化経済学会論集第13集』1-18頁. 査読無.

5. 2008年 3月 Kimura, Yuichi, “The foundation and development of the LSE in late Victorian Britain”. Study Series No. 60 Center for Historical Science Literature. Hitotsubashi University. 査読無.

[学会発表] (計 5 件)

1. 木村雄一、瀬尾崇、2011年3月20

日「カルドア二部門モデルの再検討」第15回進化経済学会全国大会, 名古屋大学.

2. Kimura, Yuichi, 2011年3月2日 “Lionel Robbins and John Maynard Keynes: the Liberalism group’s Counterattack of Laissez-faire against Cambridge” The 7th International Keynes Conference, 2 March (東京)

3. Kimura, Yuichi, 2010年 3月27日 “The ‘Robbins Circle’ of the London School of Economics and Political Science: the Liberalism group’s counterattack of Laissez-faire against Cambridge” The 14th annual conference of the ESHET: The Practices of Economists in the Past and Today, 25-27 March 2010 (アムステルダム).

4. 木村雄一、2009年 3月28日 「ロビンズ・サークル」進化経済学会第13回全国大会, 岡山大学.

5. 木村雄一、2007年 3月24日 「初期カルドアの不均衡経済学」進化経済学会第11回全国大会, 京都大学.

[図書] (計 5 件)

1. 木村雄一、2011年1月 「カルドアの収獲逡増論の源流—ヤングの講義録とLSE時代を踏まえて」八木紀一郎・服部茂幸・江頭進『進化経済学の諸潮流』日本経済評論社, 261-284頁.

2. 木村雄一、2010年 5月 「新厚生経済学—「科学」としての経済学」小峯敦編『福祉の経済思想史家たち(第三版改訂版)』ナカニシヤ出版, 232-243頁.

3. 木村雄一、2009年7月 「ロビンズ・サークル—自由主義陣営からの反撃」平井俊顕編『市場社会論のケンブリッジ的展開—共有性と多様性』(日本経済評論社)

4. 木村雄一、2009年6月 『LSE物語—現代イギリス経済学者たちの熱き戦い』(NTT出版)

5. 木村雄一、2007年 4月 「新厚生経済学—現代理論の到達」小峯敦編『福祉の経済思想史家たち』ナカニシヤ出版, 218-228頁.

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況（計◇件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

木村雄一（KIMURA YUICHI ）  
埼玉大学・教育学部・准教授  
研究者番号：80436740

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：